

第13回小平市史編さん委員会要録

1. 日 時 平成24年9月15日（土） 午後3時00分～午後4時00分
2. 会 場 中央図書館会議室
3. 出席者 市史編さん委員 4名（欠席5名）、事務局10名（うち調査専門委員6名）
4. 傍聴者 1名
5. 会議次第
 - （1）開 会
 - （2）部長挨拶
 - （3）副委員長挨拶
 - （4）報 告
 - （5）議 事
 - （6）閉 会
6. 報 告
 - （1）小平市史別冊 図録及び写真集について
 - （2）小平の歴史を拓く―市史研究―の編集について
 - （3）小平市史の装丁について
7. 議 事
 - （1）近現代編の執筆内容の確認について
 - （2）地理・考古・民俗編の印刷製本契約及び今後のスケジュールについて
 - （3）近世編の印刷製本の状況について
8. 閉 会

【配布資料】

- | | |
|-----|-------------------------|
| 資料1 | 小平市史別冊 『図録』『写真集』について |
| 資料2 | 小平の歴史を拓く―市史研究―の目次構成 |
| 資料3 | 小平市史『近現代編』の細目次（案） |
| 資料4 | 小平市史『近現代編』の原稿執筆（見本原稿） |
| 資料5 | 小平市史『地理・考古・民俗編』のスケジュール表 |

<会議の概要>

1 開 会

本日は委員長が欠席のため、副委員長の私が議長を務めさせていただきます。よろしくお願いたします。

2 部 長 挨拶

市史編さん事業は、近世編が最終の校正段階に入っており、地理・考古・民俗編は原稿が印刷に回され、更に近現代編は原稿のとりまとめが行われている段階です。いよいよ大詰めを迎えて来たと感じております。

私も膨大な原稿を拝見させていただいていますが、どれも十分な配慮をいただいていると感じているところです。委員及び監修者、関係者の皆さまのご努力に感謝いたしますとともに、本編の完成に向けて最終段階に入っていますので、今後とも更なるご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本日の会議では、今後に向けた貴重なご意見、ご指導をくださいますよう、よろしくお願いたします。

3 副 委 員 長

編さんスケジュールもいよいよ山場に差し掛かっています。近世編は最終段階、地理・考古・民俗編は既に入稿し、近現代編は監修の段階です。後ほど、各編からご報告をお願いしますが、市史編さん事業は重要な時期を迎えていますので、皆さまのご協力をよろしくお願いたします。

4 報 告

- (1) 小平市史別冊 図録及び写真集について
- (2) 小平の歴史を拓く―市史研究―の編集について
- (3) 小平市史の装丁について

事務局：配布資料の確認の後、配布資料に基づき、図録及び写真集の編さんスケジュールと編集状況、及び編さんにあたってのコンセプト等を説明し、理解を得た。

質問等：①写真の提供者などに対して、写真集をどのように配布するのか。

②図録及び写真集にキャプションが付してあるのは分かり易くて良い。利用される内容になるよう努めてほしい。

事務局：①配布については、まだ考えていない。ケースバイケースになると思う。

事務局：市史研究5号の内容を説明。構成は、活動報告、論文、研究報告、史料紹介、コラム、市民の声とした。

質問等：①調査専門委員は、今後、市史さん業務にどのような役割を担うのか。

②年表や索引の編さんに係る編さん委員会委員の関わりはどのようなものか。知らないところで出来てしまうのか。

③25年度に刊行予定の「市史研究第6号」の内容はどのようなものか。

事務局：①調査専門委員 3名の任期は今年度末まで、他の3名は25年9月まで。
年表や索引、概要版の作成は、事務局職員が行う。

②編さん委員会は直接関与しないが、委員に対しては随時報告したい。

③市史編さん中に収集した史料を掲載したい。

事務局：市史の装丁について説明。表紙・裏表紙の生地と色、題字、スピンなど
について、他市の見本をもとに説明し、理解を得た。

質問等：近世編と民俗編は印刷業者が異なるが、装丁や色がうまく合うのか。

事務局：契約仕様は同じである。民俗編は、近世編が出来上がってから印刷・製
本に入るため、現物を示すことで同じようなものができると考えている。

5 議 事

(1) 近現代編の執筆内容の確認について

監修者：細目次については、配布資料のとおり予定している。また、見本原稿を
示した。近現代編は、小平の近現代の歴史を、「開発」、「改良」、「福祉」
という3つの視点からみた。また、「暮らし」に重点を置き、暮らしを支
える仕組みについて各章ごとにテーマを設けて取り組んだ。更に、歴史
への認識が地域ごとにどのように異なるのか、また戦前・戦後の地域の
状況はどのようなものであったのか、などについて実態を分かり易く記
述した。ご理解いただきたい。

質問等：特に質問はなく、執筆内容が了承された。

(2) 地理・考古・民俗編の印刷製本契約及び今後のスケジュールについて

監修者：配布資料を基に説明。地理・考古・民俗編は初校に十分な時間をかけた。
初校4週間のうち、2週間は執筆者による校正、2週間は事務局による
校正を考えている。初校では、地理、考古、民俗のそれぞれについて、
分量や内容など基本的な事項を確認したい。細かい表記などについては、
2校に回す予定。

質問等：近世編や民俗編の定価はどうなるのか。

事務局：各編で異なる定価とするのか、或いは統一価格にするのかは未定。

(3) 近世編の印刷製本の状況について

事務局：近世編の校正の進捗状況を説明。

質問等：①製本に入る時期など、予定どおりに進んでいるのか。②小平町誌の箱
(ケース)はボロボロの状態だ。長持ちする丈夫な箱にしてほしい。

③製本会社は信頼できるのか。

事務局：①現在4校目を行っており、訂正箇所を確認中。②町誌はホッチキス止
めの箱のため弱い、紙も中性紙のため劣化してしまう。今回は、町誌よ
り丈夫なものになる。③信頼できると考えている。

6 閉 会